

れるのではないかと不安を抱く向もある(京都)。

一日から実施せられた取引高税は、手数がかかること、人手を要すること、資金が固定して金詰りを一層甚だしくすること、及び窮極のところは之によつて経営内容が明瞭となり所得を適確に把握されること等の理由によつて業者側から著しく不評を蒙り(京都、小樽、松本、岡山)又印紙の不正受授、使用後の印紙の売買等種々の違反行為も行われ(新潟、高知、下関、熊本)各地に撤廃の要望が起つてゐる(札幌、神戸、岡山、下関、大分)。

二、預 金

銀行増資株払込の爲の預金引出し(京都、神戸、熊本)政府支払の不活潑(京都、神戸、青森、高知)等を理由に預金の伸び悩みを伝える地方もあるが、大勢としては預金は著増を来した(各店)。之は政府支払が進捗したこと(大阪、名古屋)救国貯蓄特別運動が効果を挙げたこと(各店)福德定期預金が人気を買ったこと(名古屋、函館、高松)市中銀行が新発足を控えて預金獲得に努めたこと(大阪)等の理由の他、当月は期末のことゝ粉飾が相当行われた関係も見逃し難い(各店)。尚公価改訂後手形交換高が漸次膨脹を示しつつあるが(大阪、京都、下関)この原因は一件当り取引金額が公価改訂によつて増加したこと、金詰りを啣つてゐる事業会社が増加運転資金の必要に迫られて已むなく代金決済を手形によりつゝあること等に求められる(大阪)。

農業協同組合預金は蘭代金(京都、前橋、静岡、松本)葉煙草賠償金(各店)麦代金(前橋、岡山)及び梨、栗、蜜柑等の果実代金(松江、松山)等の流入により順調な伸びを示した(各店)。

三、貸 出

銀行側は先行警戒から新規貸出の抑制、回収の促進(各店)担保主義の励行(仙台、松山)に努めつつあるが公価改訂による増加運転資金需要が漸く全産業に滲透した為(各店)貸出は増加を来した(各店)。貸出のうち主なるものは、蘭資金(各店)繊維関係資金(大阪、名古屋、京都、新潟、熊本)加工水産物蒐荷資金(札幌、小樽、青森)水産物蒐荷資金(函館、青森、下関)等の季節的資金の他地方公共団体に対する繋ぎ資金(大阪、仙台、函館、青森、秋田、高松)等である。尚

各支店金融報告抜萃 昭和二十三年十月—十二月

信用取引回復の爲、本行は之から商業手形による決済を慫慂して来たが増加運転資金需要の擡頭を契機に本行の商業手形の再割引は増嵩を示しつつある(大阪)。

「中小企業金融対策要綱」に基づく代理融資及び損失補償融資が二十日から実施せられたが代理融資に付ては設備資金のみでなくむしろ運転資金を融通してもらいたいとの要望があり(前橋)又損失補償融資に付ては市中銀行の資金繰り逼迫に加えてその損失負担が七割に及ぶことから銀行側は勢い慎重な態度をとり融資実行は渺々しからず(小樽、前橋、甲府、岡山、高松)総じて期待外れの感が強い。

四、物 価

公価改訂後既に三ヶ月を経過した今日に於ても実際物価の動向は意外に平静を保ちその間隔値のハネ返り現象は微塵も見られない許りか逆に公価に鞘寄せする傾向も出現し殊に需給均衡品の一部には公価を割つて自由価格を再現するものも弗々散見せられるに至つた(大阪)。個々の品目に付てみれば燃料(各店)繊維品(京都、甲府、金沢、下関、熊本)靴(京都、広島)鶏卵(静岡、松本)牛乳(静岡、松本)等の如く昂騰したものもあるが大勢は下落の傾向(各店)乃至横這状態(仙台、函館、青森、前橋、高知、福岡)にある。(堀江)

昭和二十三年十月—十二月

十 月 中

一、概 況

吉田新内閣の誕生は混迷せる政局に一脈の曙光を齎したものととして労働組合方面を除いては一般に好感を以て迎えられた(各店)。特に金詰りと経営難に悩む事業界方面に於ては取引高税の撤廃、統制緩和を新内閣に期待する向が尠くない。然し一般には新給与ベースを繞る賃銀問題、追加予算財源問題等幾多の難問題の横たわつてゐる現在、従来の財政金融政策に急激なる変化は有り得まいと見てゐる(各店)。企業金の金詰りは依然として緩和せられず特に中小企業内種事業部門にその声は強く(大阪、札幌、仙台、前橋)一般に選択買の傾向並びに同業者間の競

争の激化は敍い難い事実となつてゐる(名古屋)。即ち弱小企業の間には既に人員整理(札幌)工場閉鎖(神戸、前橋)店舗の譲渡(仙台)解散乃至業種転換(京都)等が弗々見られ整理の段階に入つたものが散見せられる(大阪)。引続く購買力の低下に商況は依然として冴えず(京都、函館、高松、小樽、松本)僅かに季節的なストーブ(小樽)冬物衣類(高松)等若干売行好転を見せたに過ぎない。かゝる商況不振の打開策としてはサービスの改善、宣伝広告の活潑化等に依る売急ぎの風が顯著である(松本、京都)。米、甘藷の供出は干害、水害、螟虫の発生で減収を見た一部地方(熊本、広島、静岡)を除いて一般に好調な足どりを示しているが(各店)之は主として農家経済の金詰り、食糧事情の好転、奨励金報奨物資の魅力、本年度作柄の良好に因るものである(各店)。

十月二十三日より突如実施せられた塩の専売局収納の全面的停止は塩業関係者に深刻な打撃を与え(岡山、広島、下関、高松、神戸)既に各地に閉鎖、休業続出しその成行は注目されている(下関)。

二、預 金

供米代金の支払の進捗(新潟、青森、秋田、仙台、福島)、葉煙草賠償金の支払(前橋、福島)、並びに水害関係預金部貸付金及公共事業費等の一時的滞溜による公金預金の増加(仙台)、等に依り預金の顕著な増加を見た地方もあるが、大勢としては伸び悩み乃至は減退を示した(各店)。之が原因としては一般商況不振(神戸、京都、大分)、公団預金の流出、租税資金の引出(高松、金沢、大分)、別段預金として整理されていた銀行増資株払込金の振替(大阪)等が挙げられるが、特に先月末の期末粉飾の反動の影響が著しいものと認められる(各店)。農業協同組合の預金は秋肥、納税資金の調達等を原因として依然引出増高の傾向にあり(前橋、熊本)米、麦、甘藷等の供出代金の歩留りは必ずしも良好とは云えず(新潟、熊本、高知)先行樂觀を許せないものがある(新潟、前橋)。従つて農業協同組合としては今後放出される供出代金の預金還元を策し預金獲得に大奮(各店)で、興農定期貯金の目標額達成を図る全国的運動に呼応すると共に各地で夫々特色のある方策を樹て運動を展開中である(各店)。

三、貸 出

銀行側では政変旁々先行を警戒して極力融資を引締め、大口融資の回避(広島)既往貸付の回収(前橋)に努めると共に益々融資先の厳選に努めている(名古屋、小樽、熊本、前橋、福岡)が業界の金詰りと依然として旺盛な増加運転資金の需要(函館、名古屋)を反映して貸出は増加を示している(各店)。融資の中主なるものは繊維関係資金(各店)購置資金(松江、京都、熊本、鹿児島)水産物蒐荷資金(小樽、函館、青森、京都)着漁資金(高知)薪炭蒐荷資金(広島、高知)等季節的資金の外貿手融資(大阪、函館、金沢、松江)が目立っている。

先月二十日より実施せられた中小企業に対する復金の代理融資並びに補償融資は本月に入つても極めて低調でその実績は殆んど云うに足りない(各店)。之が不振の原因としては代理融資については資金の枠の不足(神戸、高知、仙台)中小企業金融代理貸付融資準則、同融資方針等種々制約が多く厳格に之に適合する融資先が中々見出し難いこと(松本)等が挙げられ寧ろ本制度よりは勸銀、興銀、商工中金に対し現在実行されている別枠融資の範囲拡大を要望する声が強い(松本)。補償融資については損失補償に最低二ヶ年を要し然も三〇%の補償を得られるに過ぎない為め、短期運転資金の需要多い現在、かゝる危険性の大きい長期融資を取上げる余裕少く銀行側の態度が極めて消極的なこと(各店)が主因となつている。かゝる事情から本制度に対する期待は薄く更に積極的な対策を要望する向きが多い(神戸)。

四、物 価

八月以降漸落を示して来た實際物価は引き続き購買力の減退から総じて下落(大阪、鹿児島、京都、前橋)若しくは横這い状態(松江、大分)を示している。個々の品目に付き見れば主食類は主食増配の接近と甘藷の出廻りを反映して、低落を示した地方(名古屋、岡山、大阪、京都、大分)が多く、蔬菜、果実、調味品等副食品も亦、季節の出廻りと増配により漸落を示した(秋田、函館、大阪、下関、大分)。その他一般商品に付ては購買力の不振と生産過剰により日用品、家庭器具類、薬品等は投売り傾向にあるが(京都)、薪炭類、繊維製品は越冬需要の為め値上り気味であり(大阪、京都、広島、熊本)砂糖も亦最近の配給減と主食枠

外を見越して顕著な騰勢を見せている(大阪、大分)。(渡辺幸)

十一月中

一、概 況

貨銀の増額を赤字融資、物価改訂、補給金の増加によつて行わないとする所謂三原則の提示は経済安定策の具体的先鞭として一般に強い注目を惹いているが(各店)、余りに優遇され過ぎて来た重点産業に於ても従来の非合理的経営に対し反省しようとする気運が擡頭しつつある(大阪)。例えば北海道の炭鉱に於ては生産の責任割当制による予算統制を実施し、着々経営の合理化を進めているが、他方既往赤字の処理、自由売炭制、メリット制の採用等統制の改善を要望している(札幌)。又中小企業に於ても合理化の促進は必至とみて企業整備と自己資本調達への努力をなしつつあるが(新潟)、一般には三原則による直接影響の少ない上に重点産業に対する反感も手伝つて之に賛成する声が高い(大阪、岡山)。特に医薬品の如き生産過剰に陥つた産業に於ては弱小企業が淘汰されるものとみて一流企業は之を歓迎している(大阪)。

農作と農家経済の金詰りに順調な足どりを示した本年度の供米は十一月に入り頭打ちの形となつたが、之は早場米報奨金の打切りと個人別補正割当に暇どつたこと等によるものである(福島、高知)。

二、預 金

前月異例の減少を示した預金は農村方面に於ては供米代金、蒔代金の精算払、葉煙草賠償金、秋野菜代金、薪炭代金等の流入(福島、青森、前橋、京都、岡山、大分、札幌、仙台、松江、下関、高松、高知、新潟、金沢)により、都市方面に於ては公金預金、公団預金等の一時的滞留、貸付に伴う両建預金等(大阪、函館)により増加したものの、所得税の納期に当つたことと一般的商況の不振により八、九月頃の増勢を遙かに下廻つた。

農業協同組合に於ける供米代金の預金化は系統機関が従前通り預金振替制をとること、農村インフレの後退的傾向により農民が濫費的傾向を反省しつつあること、本年初頭の徴税強行に懲りて納税準備の爲め貯蓄せんとする気運にあること等昨年に比し良好なる面もあるが(名古屋、広島)、既往借入金金の返済、納税資金

報奨物資の買入代金その他の生活費の引出春耕資金の早期手当、農業協同組合に対する不安等(新潟、福岡、鹿児島)の原因により昨年以上の預金成績を挙げることは困難とみられている(金沢)。

三、貸 出

物価改訂に伴う増加運転資金の需要は一巡したが(高松)、年末を控え一般事業会社の資金需要は旺盛の度を加えている(大阪、新潟、前橋、名古屋)。然し乍ら銀行が経済三原則の提示等により企業の合理化促進を必至とみて貸出引締方針を強化しているのと(門司、札幌、小樽、広島)、預金伸び悩みを反映して、貸出増加額は前月を上廻つたものの、預金同様八、九月頃に比し停滞を示している(大阪)。融資の主なるものは繊維関係資金(大阪、金沢、松山、熊本、京都)、公団認証手形割引(小樽、門司、下関、高松、新潟)の外、冬山造材資金(小樽、秋田)水産物荷受資金(松本、松山、京都、大分、青森)着漁資金(高知)年末商品仕入資金(鹿児島、大阪、下関)等の季節的資金である。

商業手形の利用は最近活潑化して来たが(京都、静岡、甲府)、之は本行に於ける積極的勧奨と物価改訂後に於ける業者の金詰りによるものとみられる。即ち購買力減退、生産上昇に伴う買手側の強気、価格差益金の徴収による売手側の金詰り等が商業手形の利用を余儀なくしたものであり(前橋)、之が為め商業手形決済資金の融資が目立っている(京都)。尚商業手形の利用は主として繊維関係である(甲府、前橋)。

四、通 貨

早場米地帯における供米が一服した上(青森、福島、秋田、新潟)、第二期所得税更正決定に伴う租税収入の増加等により、供米代金、水産物代金等現金需要は依然旺盛であつたにも拘らず前月に比し通貨の増勢が衰えた地方が多い(岡山、札幌、広島、函館)。特に小樽、前橋、甲府、静岡、大分、京都の本行各支店に於ては還収超過を示している。

五、物 価

實際物価は前月に引続き保合い乃至下押気味であり(小樽、青森、前橋、岡山、下関、広島、新潟)、日用品食料品の一部公定価格廃止も影響薄である(下関)。

特に野菜鮮魚は出廻り増加のため下落し、公定価格を割っているものも少なくない（青森、京都、岡山、秋田、広島、大阪）。之に反し繊維品の一部、燃料、調味料、嗜好品は年末を控え季節的需要のため値上り気味で（小樽、松本、京都、金沢、甲府、熊本）、又米、麦、小麦粉は配給の順調と豊作により値下りを示した処が多い（小樽、前橋、松本、京都、岡山、松山、大分、函館）。

六、商 況

供米代金流入に伴い期待された農村の購買力もさしたることなく（前橋、岡山、熊本、秋田、広島、静岡、松江）、更に新米の出廻り、秋野菜鮮魚の入荷順調となつたため商品は店頭に氾濫し、消費者の選択傾向は愈々顕著となつて来た（前橋、名古屋、鹿児島）。かくて商店街に於ては福引付売、月賦販売掛取引の復活等宣伝と売込みに狂奔しているが（小樽、京都、新潟、大分、金沢、甲府）、僅かに活況を呈する百貨店に於てさえその売上高は前月を下廻っている処も少なくない（大阪、静岡、門司）。かかる商況不振を反映して業者の金詰りはその度を増し（広島）、年末仕入資金不足をかこつ向もあり（鹿児島、熊本）、歳末景氣に対しても大した期待がかけられず、愈々整理恐慌到来の叫び声も高いが（京都、名古屋）、旧来の業者は暖簾がもの云う時代が到来したものとみている（鹿児島）。

十二月 中

一、概 況

経済安定九原則の指令は我が国経済の自立化と国際経済への参加態勢の確立を促進せしめる警鐘として業界に多大の感銘を与え、今や一般世論の関心は之が帰趨に注がれている（各店）。而して之に伴い企業合理化の気運は愈々濃化し企業界は従来の日和見的態度を一擲し弗々之が積極策を採り始めるに至つた（名古屋、札幌、金沢、広島）。

尚巷間の一部に為替レートの早期設定問題と絡み通貨措置の流説が再び擡頭し通貨不安が再燃したが、一般には些したる影響も無く（各店）預金引出等の事態は殆んど見られなかつた（小樽、名古屋）。

事業界の金詰りも年末に至つて一段と拍車をかけられ賃金不払、工場閉鎖等となつて現われているが（福岡）特に炭礦関連産業は未払金の累増により深刻な金詰

りに追い込まれた（福岡、小樽、札幌、下関）。又製材業、機械工業等は価格政策の不適正、購買力の不振等に因りその金詰りは深刻で先行不安感に覆い難いものがある（青森）。

年の瀬を迎え労組筋の越年資金要求は益々活潑化し労資双方の慌しい動きが見られたが（岡山、福岡、下関、広島）資金難の現状からスト等の実力行使に至つたものは少く（松山、福岡）、概ね各経理内容の許す範囲内で円満に解決され、予想せられた年末労働攻勢も平穩に推移した（神戸、静岡、京都）。

二、預 金

政府資金の支払が年末押迫つて行われたため末端への滲透が遅れたこと（名古屋、大阪）正月用諸物資の買入及年末決済資金の引出が可成り目立っていること（名古屋、大阪）等に因り銀行預金増勢は予期した程の良好さを示さなかつた（大阪、函館、仙台）地方もあるが、一方供米代金の流入（神戸、京都、松山、松江、大分）政府支払の進捗（岡山、下関、福岡、松山）公団預金、公金預金の一時的滞留（松江、大分、神戸、甲府、広島、金沢）、搦て救国貯蓄歳末特別運動の期間中であり（熊本、福岡、金沢、松江）順調なる増加を示した地方が多い。

農業協同組合預金は供米代金の支払進捗（京都、松本、岡山）蜜柑代金の流入（松山）により増加した処もあるが、早場米地帯に於ては供米一巡した上借入金の返済、諸税支払、報奨物資の購入、正月手当等のため引出が頼に活潑化し預金の歩留り率も激減している（函館、前橋、新潟）。

三、貸 出

貸出は各行とも益々厳選主義を堅持しているが下旬以降連年年末決済資金及越年資金等一般事業会社の資金需要が旺盛を極めたため、可成りの伸張を示した（各店）。貸出の中では正月用物資仕入資金（大阪、京都、広島）繊維関係資金（大阪、静岡、甲府、京都、松山）製紙関係資金（高知、松山）農水産物蒐荷資金（青森）薪炭資金（大分、高知）等の季節的資金の外スタンブ手形、貿易手形（大阪、函館、金沢）が目立っている。

尚年末売掛金決済の商手が相当に出廻りその割引依頼が急増したことは金詰りの齎した一形態とは云い乍ら信用取引の復活を示すものとして注目せられる（静

岡)。

又一時衰えを見せた關金融も年末要資の増加旁々銀行の融資引締めを映じて本月は幾分活潑化した貌である(函館)。

四、通 貨

更月後租税、食管、専売收入、郵便局過超金の受入等政府資金の引揚好調(大阪、京都、名古屋、松本、新潟)に伴い中旬迄小康状態にあつた(各店)銀行券は下旬に至つて供米代金の支払急増(大阪、松江、広島、甲府、仙台)官吏俸給新旧ベースの差額支給旁々繰延中の会社筋の越年資金、年末決済資金(大阪、小樽、前橋、松本、仙台)等現金需要が幅轆した為め下旬に至つて連日著しい発行超過を示したが(各店)、末日に至つて極力還収に努めた結果臨時寄託券制度実施の關係も加わり大幅の還収を見た(各店)。

五、物 価

實際物価は歳末景気の低調から例年の如き年末昂騰の気配は窺われず(広島、函館、神戸)総じて微騰(大阪、岡山、高知、甲府、熊本、小樽)乃至保合(松江、京都)で商品出廻りの順調と一般購買力の不振を如実に反映している(大阪)。織維品の一部、燃料、正月用の糯米、小豆類、砂糖は季節的に若干値上りを示し(秋田、広島、高知、小樽、新潟、大阪、京都、松本)ているが、主食類は甘藷が季節外れて反騰(大阪)した外、米、麦何れも値下り(函館、静岡、甲府、岡山、下関)乃至は保合(青森、仙台、新潟)の処が多い。

六、歳末商況

年末を控え百貨店、商店街では華美な店頭装飾、宣伝、福引付売出、配達の復活等種々趣向を凝らして客足の吸引に努めているが(各店)、依然として良品の選択買傾向強く(函館、仙台、福島、新潟、広島、福岡)又期待された農村の購買力も生活費の昂騰及閑取入の減退、殊に一月以降の徴税警戒等から一向に振わず(仙台、福島、札幌、鹿児島、新潟、熊本)、為めに百貨店を除けば期待程の売上のない向が多い(各店)。

品目別に見るならば購買力は概ね衣料品、食料品、生活必需品等に向けられ(金沢、新潟、広島)会社、団体等の贈答品を除いては大口買物は少く(小樽、青森)高仙な家具類、美術品等贅沢品は不振を極めている(岡山、広島)。(渡辺幸)

昭和二十四年一月——三月

一、概 況

総選挙の結果民自党の圧勝は政局の安定を齎すものと一部の労組を除き好感を以て迎えられ、一般の関心は今後採らるべき政策就中経済安定九原則の具体化並に為替レートの帰趨に向けられている(各店)。産業界では企業経営合理化の機運漸く熟し(各店)、人員整理も漸次本格化且全般化しつつあるが、反面之は労資間の摩擦を激化せしめ、総選挙による共産党の予想外の進出と共に今後の成行が注目されている(神戸、京都、松山)。年初早々展開された徴税攻勢も、中小企業金の詰り深刻なる折柄、予定額徴収は困難視せられ、若し之を強行すれば、或る程度の破産者を出す場合もあるものと憂えられるが(各店)、農家は昨年の経験に鑑み可成り納税準備をしているので多少の摩擦あるにせよ、農業所得税の予定額徴収は可能と見られている(新潟)。斯くの如き徴税の強行により一般に金詰りは一層激化しているが(各店)、特に炭礦関連業者は炭礦の未払金累積により窮境に陥っている(札幌、下関)。暖冬異変は電力事情を緩和せしめ(各店)、冬季低下を懸念された生産も微落に止り(大阪)、又貨物輸送を円滑ならしめたが(秋田)、一面山元よりの搬出難による木材滞貨の増大(福島、秋田)、寒天(松本)、海苔(広島)の被害、ブリの不漁(高知)等を始め、麦作の徒長が憂慮されている(各店)。尚レート設定に関連して流布されている通貨措置懸念は関係当局の屢次の打消声明にも拘らず、依然として根強きものがあり(各店)、通貨逃避の対象は先行デフレ見越から商品を選主として株式に置かれているが(札幌、甲府、熊本、鹿児島)、一部では十円以下の小額券の需要が増加している(小樽)。

二、預 金

年末著増した銀行預金は年明け後、未決済手形・小切手の引落、同業者公金預金の引出等により大幅に減少したが、其の後徴税の強化、政府支払の不伸、旧